

復活節第一主日・イースター礼拝 説教「イースターの朝」要約

ルカによる福音書 第24章1～12節

日本キリスト教団 茅ヶ崎堤伝道所 2023年4月9日

① イエス様が亡くなったのは安息日が始まる少し前

イエス様を葬ったのはアリマタヤのヨセフでした。イエス様が十字架上で息を引き取られたのは、午後三時。ユダヤでは日没から翌日が始まり、その翌日は、葬りも禁止される安息日でした。そのため、ヨセフは急いで葬りを行います。その様子をイエス様に従ってきた婦人たちが見ていました。ヨセフの厚意に感謝しつつも、彼女たちはもっと丁寧な葬りを望んだのでしょう。彼女たちは家に帰ると、すぐに香料と香油を用意するのです。当時の習慣に従い、遺体に香料と香油を塗ろうと考えたのです。安息日が終わると、婦人たちはお墓へと向かいます。準備していた香料を持って。すると、お墓に異変が起きていました。入り口をふさぐ石はわきに転がり、中にあるはずのイエス様の遺体がなくなっていたのです。そこへ天使たちが現れ、彼女たちに告げます。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」。天使が告げたことは真つ当です。お墓は、あくまでも死者たちを納める場所であって、生きている人が、そこにいるはずがないからです。

② イエス様は、死んで、よみがえりました

天使たちは、女の人たちに優しく微笑みながら告げたのかもしれませんが。「生きている人を捜すためにお墓に来るなんて何ておバカさん」と。きっと彼女たちも、あとで自分たちの行動を振り返って笑い合ったに違いありません。「私たちは何てバカなことをしたのでしょうか。イエス様は生きておられたのに、お墓に捜しに行っちゃった。死者に塗る香料まで持って」。イースターは、このように、悲しみが笑いに変わった日でもあるのです。勿論これは神様が死を打ち破ってくださった結果です。天使たちは、イエス様の言葉を思い出すようにと促します。「人の子は必ず…、三日目に復活することになっている、と言われたではないか」。特にルカによる福音書は、このことを大事にします。エマオの村に向かう二人の弟子たちにも、復活のイエス様はご自身の正体を明かさず、聖書全体を説いてくださいました。み言葉を通して、神様のなさってくださいました偉大な出来事に気づくことを大切にしているのです。私たちも、毎日曜日にそのことをしているのです。

③ イースターの朝

イエス様は、死んで、よみがえりました。空になったお墓を最初に目撃したのは、婦人たちでした。彼女たちは、この出来事を男性の弟子たちに報告します。でも信じてもらえませんでした。しかし、ペトロだけはお墓へ走って行き、彼女たちの言葉を確かめます。言葉を聴いて、立ち上がる弟子の姿がここにいます。イエス様のよみがえりによって、すべてが変わりました。もはや死は、牙を抜かれた滑稽な獣となったのです。この箇所には、イエス様が登場しません。だからこそ、力のある聖書の箇所だとも言えます。またこの箇所から、婦人たちのイエス様への愛を知ることができます。「イエス様のために何かをしたい」、それも信仰の大切な気持ちです。しかし、ここではその気持ちが空振りに終わり、持っていった香油も、全くの無駄になりました。けれども、何て、うれしい無駄でしょう！女の人たちは、時々あの日の朝のことをうれしそうに思い出します。「私たち、本当にバカみたいだったね。イエス様は生きておられたのに、お墓に捜しに行ったのだもの。そして死んだ人に塗る香油まで持って」。女の人たちは笑い合います。とてもいい顔して。今、私たちにも天使たちは語りかけています。「イエス様は、復活なさったのだ」と。